

特別寄稿

「歯科のない病院と地域歯科医師会の医科歯科連携の取り組み」  
～岩手県立中部病院とのモデル事業から～

高橋 綾

一般社団法人岩手県歯科医師会  
口腔保健センター委員会

はじめに

岩手県中部地域は、北上、花巻、遠野、西和賀の4地区を合わせた人口約22万人の地域で、岩手県立中部病院は、その中部地域にある病床数434床、平均在院日数10.5日（平成27年度）の急性期病院である。25科ある診療科の中には歯科がないため、平成21年の開院当初から北上歯科医師会と、平成26年度からは花巻市歯科医師会の協力も得て、2つの地域歯科医師会と連携している（図1）。

連携の経過

岩手県立中部病院は花巻厚生病院と県立北上病院が合併し平成21年に開院した。平成30年度には開院10年目を迎え、医科歯科連携も10年が経過している。その内容は、NSTや訪問歯科診療などの病棟での取り組みに始まり、がん（周術期）医科歯科連携、周産期医科歯科連携などの外来での取り組みを含め、多岐に渡っている（図2）。その中でも平成23年度から開始されたがん（周術期）医科歯科連携は、歯科のない病院と地域歯科医師会の連携モデル事業として、岩手県内の先進的な事例となっている。

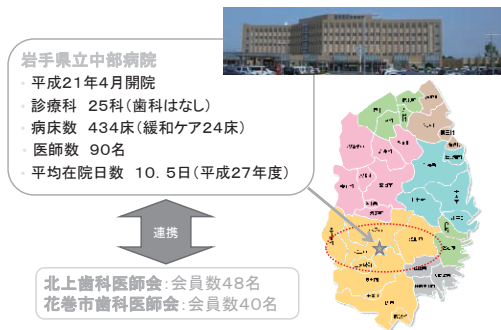


図1 岩手県立中部病院と地域歯科医師会

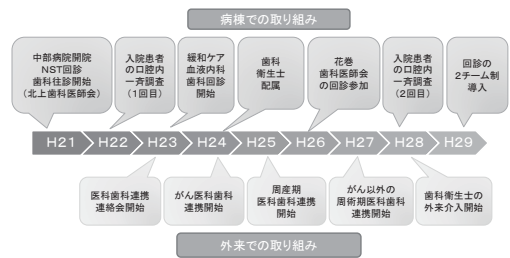


図2 岩手県立中部病院と地域歯科医師会の医科歯科連携経過

Hospital without dentistry and multiple community dental associations medical dental collaboration  
～ model case of iwate prefectural chubu hospital ～

Iwate Dental Association, Oral health Center.  
2-5-25, Moriokaekinishidori, Morioka, Iwate, 020-0045, Japan

岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-5-25 (〒 020-0045)

Dent. J. Iwate Med. Univ. 46 : 131-136, 2022

### 病棟における取り組み

病棟における医科歯科連携の取り組みには、歯科回診と訪問歯科診療がある。歯科回診は、地域の歯科医師が交代で週1回診察し、処方への指示、口腔ケアのアドバイスなどをしており、病院の嘱託歯科医師として診察するため、患者負担はない。

複雑な歯科治療や処置が必要な場合は、かかりつけなどの歯科診療所に依頼して病室に訪問し歯科治療を行っている。訪問歯科診療の場合、入院費とは別に、患者負担が発生する。(図3)

歯科回診 (患者負担なし)	訪問歯科診療 (患者負担あり)
<ul style="list-style-type: none"> <li>診察、診断</li> <li>処方への指示</li> <li>口腔ケアのアドバイス</li> <li>簡単な処置</li> <li>(クラスプの調整、切断程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処置が必要な場合は、本人や家族の許可をもらい、すみやかに訪問歯科診療を依頼</li> <li>訪問依頼先は                         <ol style="list-style-type: none"> <li>①かかりつけ歯科医師</li> <li>②回診担当歯科医師</li> <li>③回診メンバー内での対応</li> </ol> </li> </ul>

図3 歯科回診と訪問歯科診療

岩手県立中部病院における歯科回診人数は、平成21年度の58人のNST回診から始まり、平成23年度には、血液内科や緩和ケア病棟の歯科回診が開始され178人になった。平成26年度には、花巻歯科医師会の協力により、2週に1回だった歯科回診を、毎週行えるようにな

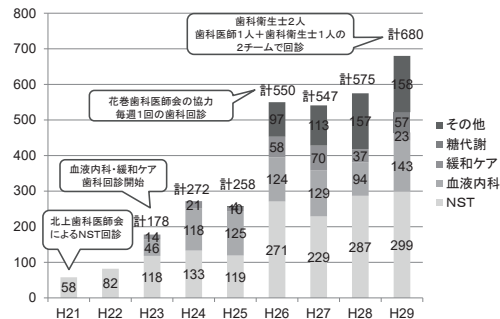


図4 岩手県立中部病院における歯科回診人数 (人)

り550人に、平成29年度には、歯科衛生士が2人に増員したことにより、2チームでの回診が可能となり、回診人数は合計680人まで増加している。(図4)

この歯科回診で口腔内に問題が見つかり歯科治療が必要となった場合には、訪問歯科診療を依頼している。その訪問歯科診療の依頼件数は、平成21年の連携開始当初は20件だったのが、歯科衛生士が採用された平成24年度に134件に急増した。さらに平成25年度に142件のピークを迎えたが、平成27年度に周術期医科歯科連携の紹介が急増したのがきっかけで、入院前に処置を済ませる事により、入院中の訪問歯科診療は落ち着いてきた。それでも年間100件を超える訪問歯科診療の依頼がある。(図5)

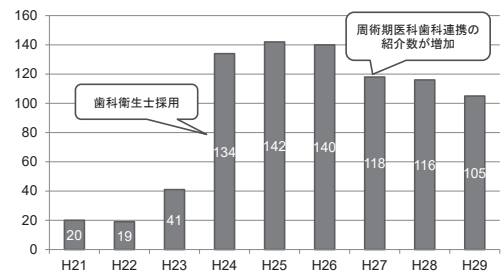


図5 岩手県立中部病院における訪問歯科診療依頼件数 (件)

### NST回診の様子

NST歯科回診は毎週水曜日の午後、医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、言語聴覚士など多職種が集まり10名以上で回診している。このNST回診に、地域の歯科医師1名と院内歯科衛生士が1名、同行している。1回の回診患者数は5~6名で、口腔内の問題の有無に関わらず、主にNST回診新規の患者の口腔内を診察している(図6)。NSTにおける歯科の役割としては、かみ合わせを回復し、食形態をアップさせる重要な役割がある。

例えば、口内炎がひどく食事が摂れないという患者も、歯科回診で適切な口腔ケアの指示をして、訪問歯科診療で歯牙の処置を行えば、1



図6 NST回診（各科各病棟）

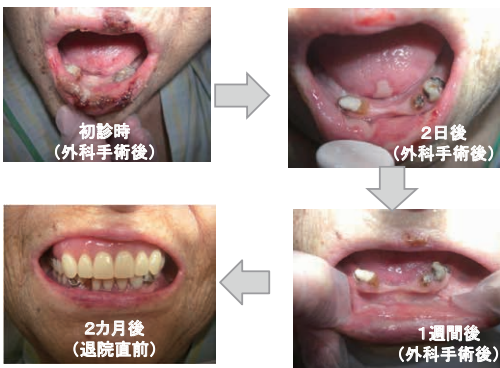


図7 NST回診で経験した症例

週間後には触れても大丈夫になり、2カ月後には新しい入れ歯でかみ合わせを回復し、常食を食べられるようになって退院できた（図7）。

### 血液内科歯科回診の様子

平成28年度まではNST回診後に行っていたが、平成29年度からは歯科衛生士が増員された事により、2チームでNST回診と並行して歯科回診を行えるようになった。NST回診とは異なり、歯科医師、院内歯科衛生士、担当看護師だけの少ないメンバーで回診している。血液内科では、口腔内に問題がある患者5～6名を診ているが、易感染性の患者が多いため、手洗いには特に注意しており、クリーンルームの診察の場合には防護服も着用している（図8）。



図8 血液内科歯科回診（4東病棟）

化学療法を受けている患者は、治療開始してから10日～2週間目あたりに口内炎が最もひどくなる（図9）。血液内科の患者は、ほとんどが化学療法を受けているため、患者がどの時期であるかを確認しながら、今起きている口内炎の対処法や、今後起こり得る口内炎の予防法を指導している。

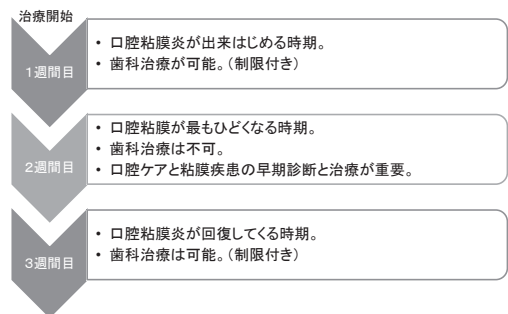


図9 化学療法中の口腔内の変化

例えばこの患者の口内炎は、化学療法中に発症したヘルペス性口内炎と歯科回診で診断された。すぐに全身的には抗ウイルス薬と鎮痛剤の投与がされ、局所的には抗ウイルス薬の軟膏の塗布、キシロカイン入りのうがい薬を使ってもらい、3日後には瘡蓋に、7日後には唇に触れられるくらいに、11日後にはすっかりきれいに治癒した。(図10)

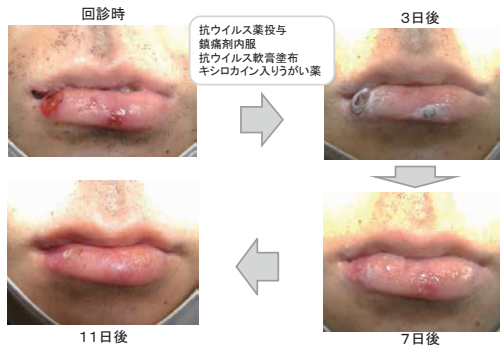


図10 血液内科歯科回診で経験した症例



図11 緩和ケア歯科回診(1病棟)



図11 緩和ケア歯科回診(1病棟)

### 緩和ケア歯科回診の様子

他科からの歯科回診を済ませたのち、最後は緩和ケア病棟へ移動し、緩和ケア歯科回診を行っている。回診メンバーは、血液内科と同じ、歯科医師、院内の歯科衛生士、担当看護師の少ない人数で回診しており、1回の回診患者数も1~2名と少ない人数を、時間をかけて診察している(図11)。緩和ケアの患者やその家族には、「病気であっても、好きなものを食べたい」「食べさせたい」、「家族や友人と話を楽しみたい」。また、お別れの後も、「みんなに見てもらうのに、きれいな顔でいたい」、「向こうの世界で、おいしい物を食べて欲しい」、といった思いが存在する(図12)。これらの思いに答えるため、丁寧な対応を心がけている。

例えば、大腸がんの患者の主訴は、「新しい入れ歯を作りたい」だったが、古い入れ歯があるか確認すると、汚れた入れ歯が出てきた。こ

#### 病気であっても

- 好きなものを食べたい。食べさせたい。
- 家族や友人と、話を楽しみたい。
- 少しでも元気に見せたい。
- 苦しそうな呼吸を、少しでも楽にしたい。

#### お別れの後も

- みんなに見てもらうのに、きれいな顔でいたい。
- 向こうの世界で、知り合いに会った時の為に。
- 向こうの世界で、おいしい物を食べて欲しい。

図12 入れ歯を作りたい、口をきれいにしたい患者や家族の思い

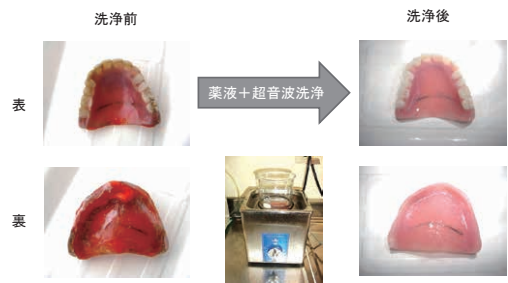


図13 緩和ケア歯科回診で経験した症例

の入れ歯を専用の薬液と超音波洗浄を行うと、新品のようにきれいにすることができ、きれいになった入れ歯をみて、患者はとても満足していた。2週間後、この患者が亡くなった際には、きれいな入れ歯も一緒に棺へ納めた。(図13)

### 外来における取り組み

岩手県立中部病院では、このNSTや歯科回診という医科歯科連携の基礎があったところに、がん(周術期)医科歯科連携を開始した。

周術期医科歯科連携の紹介人数は、平成24年度に開始してから、101～133人と3年くらい伸び悩んでいたが、平成27年度からがん以外の良性腫瘍の手術患者も紹介が始まり223人に増加し、歯科衛生士が外来にも介入するようになってからは438人に増加した。(図14)

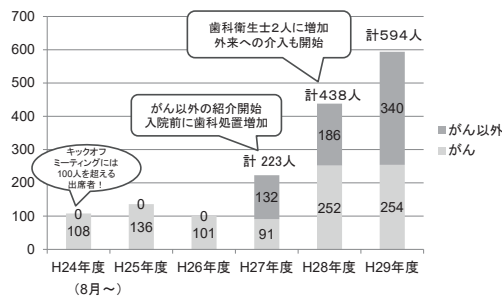


図14 岩手県立中部病院の周術期医科歯科連携紹介人数(人)

岩手県立中部病院では周術期医科歯科連携を開始するに当たり、平成23年度から医科歯科連絡会を開催し、準備を進めてきた。連絡会には、中部病院の医師や看護師の他にも、地域の医師会、行政などにも出席いただき、現在も継続して年1回開催している。(図15)平成24年度に開催された、がん医科歯科連携のキックオフミーティングには、歯科関係者と院内スタッフ合わせて111名もの出席者があった。

その後、平成25年度から産婦人科と開始した周産期医科歯科連携で、出産前の妊婦に歯科検診や治療を積極的に受けてもらうことで、早産や低体重児出産のリスク軽減に、一定の効果が得られたことから、平成27年度からは、がん患者に限らず全身麻酔の手術を受ける患者は、全て術前の歯科受診を勧めるようになり、がん以外の周術期医科歯科連携の紹介が開始された。

私たち歯科医師もそれまでは病棟スタッフと接することが多かったが、外来スタッフに対しても周術期口腔機能管理の必要性について説明会を開催し、オペ前パスや手術前説明時、外来化学療法の初回オリエンテーションなどで口腔に関する項目を追加することができた。(図16)また、病院内にいる歯科衛生士の業務も、NSTや歯科回診、退院支援など、病棟中心の介入であったのを、平成28年度からは外来にも介入するようになった。(図17)



図15 岩手県立中部病院 医科歯科連携連絡会(H23年度から毎年開催)



図16 周術期医科歯科連携 外来スタッフへの説明



図17 院内歯科衛生士業務の変化

### 考察と課題

このように岩手県立中部病院における周術期医科歯科連携は、毎年開催する医科歯科連携連絡会で、連携時のトラブルや対応策を丁寧に話し合ってきた。がん患者に限らず、全身麻酔手術を受ける患者は全て紹介するという医師や看護師、医療スタッフの意識変化や、歯科衛生士の病棟中心の介入から、外来へも介入するようになり、周術期口腔機能管理の紹介患者が増加した。

そして医科歯科連携はNSTや周術期のみならず、周産期や糖尿病へと拡大しており、さらに退院後の地域における介護の分野へも広がっている。今後はよりスムーズな医科歯科連携のために、医療ネットワークシステムの活用も視野に入れている。(図18)

これまでの10年における岩手県立中部病院の医科歯科連携は、医師や看護師、医療クラークに地域連携室など、多職種の協力で支えられ

疾患	がん治療	介護
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期</li> <li>・糖尿病</li> <li>・循環器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後の歯科受診</li> <li>・骨修飾薬</li> <li>・外来化学療法</li> <li>・放射線療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への拡大</li> </ul>
ICT(医療情報ネットワークシステム)の活用		

図18 岩手県立中部病院の医科歯科連携今後の課題

てきた。その中で最も影響したのは、歯科のない病院に歯科衛生士を配属し、病院と地域の歯科医院を繋げたことであった。

私たちはこれからも、行政や介護、多職種とも連携しながら、赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる年代の地域住民を支え続けていきたい。

### 利益相反

本発表に利益相反はない。

### 参考文献

- 1) 高橋綾, 和賀浩幸, 高橋良明, 他: 県立中部病院と北上歯科医師会の医科歯科連携の取り組み. みちのく歯學會, 44:28-29, 2013.
- 2) 高橋綾, 前川洋, 齊藤英朗, 他: 岩手県立中部病院緩和ケア病棟における医科歯科連携の取り組み. みちのく歯學會, 47:49-51, 2016.
- 3) 高橋綾, 前川洋, 齊藤英朗, 他: 地域歯科医師会による岩手県立中部病院入院患者の口腔内一斉調査～H22年度とH28年度の比較～. みちのく歯學會, 48:11-13, 2017.